Annual Report 2021

認定 NPO 法人　FaSoLabo 京都

もくじ

理事長ご挨拶 … ２P

活動理念 … ３P

FaSoLabo 京都１年のあゆみ … ４P

当事者支援 … ９P

支援者支援・当事者支援 … １０P

当事者支援・社会的理解 … １１P

社会的理解・当事者支援 … １２P

社会的理解 … １４P

連携・協働 … １８P

組織 … １９P

中長期計画 … ２０P

受賞歴・助成金実績・新聞掲載 … ２４P

2021 年度財務諸表 … ２５P

会員募集 … ２６P

理事長　ごあいさつ

いつも、私たち FaSoLabo 京都の活動を支えてくださいまして、ありがとうございます。

2021 年度の事業報告をお届けします。

本法人は、2005 年 4 月に任意団体としてスタートして以来、多くの方々に支えられながら、食物アレルギーの子どもと保護者や家族を支える活動に取り組んで来ました。2017 年度には、事業内容の一層の充実を図って、法人名称を「アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと」から「FaSoLabo 京都」に変更しました。いつも支えてくださっている皆さんの思いを大切にしながら、これからも様々な事業に取り組んでいく所存です。

前年度に引き続き、コロナ禍のなかで思うように活動が出来ない 2021 年度でしたが、それでも子ども達や保護者の方々の思いに励まされ、支えられながら、事業を行ってきました。

この報告書にありますように、感染予防対策に配慮しながら、様々なイベントや講座の開催を企画・開催してきました。「with コロナ」時代の活動のあり方を、創意工夫しながら見出してきた１年間だったと思います。そして、そのような取り組みを通して、人と直接会うこと、集うこと、そして話すことの尊さにあらためて気づき、その大切さを学んだ１年間でもあったと思います。

これからも、食物アレルギーをもつ子どもと家族が当たり前に、安心して暮らせる環境づくり、そして一人ひとりの子どもが健やかに育つ、住みよい地域や社会づくりに向けて、皆さまと力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2022 年 5 月

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都　理事長

空閑　浩人

認定 NPO 法人

FaSoLabo 京都　の　活動理念

事業・活動

「食物アレルギー」は、広く社会で知られるようになり、学校・保育園・幼稚園・子育て支援施設等ではある程度の対応、配慮がなされるようになってきました。しかしながら、一般家庭の集合体である地域での食物アレルギーの対応はまだ難しいものと捉えられており、食物アレルギーの子どもやその家族は、飲食を伴う地域の行事には参加しづらい状況が残っています。また、世帯規模の縮小や地域コミュニティの希薄化により、災害時に配慮が必要となる食物アレルギーの子どもの存在や必要な配慮に気が付いていない場合も多いといえます。

そこで私たちは、「子どもを真ん中に」した取り組みや地域他団体との連携を深めることにより、地域での食物アレルギーの社会的理解を切り口に、食物アレルギー当事者の生活の質の向上を図り、食物アレルギーの有無に関わらず、みんなが一緒に安心して暮らし続けられる社会の実現を目指して、事業・活動を行います。

1．食物アレルギーの子どもとその家族の QOL（生活の質）の向上

2．食物アレルギーへの社会的理解

FaSoLabo 京都　へ

「Fa」　は　food allergy（食物アレルギー）

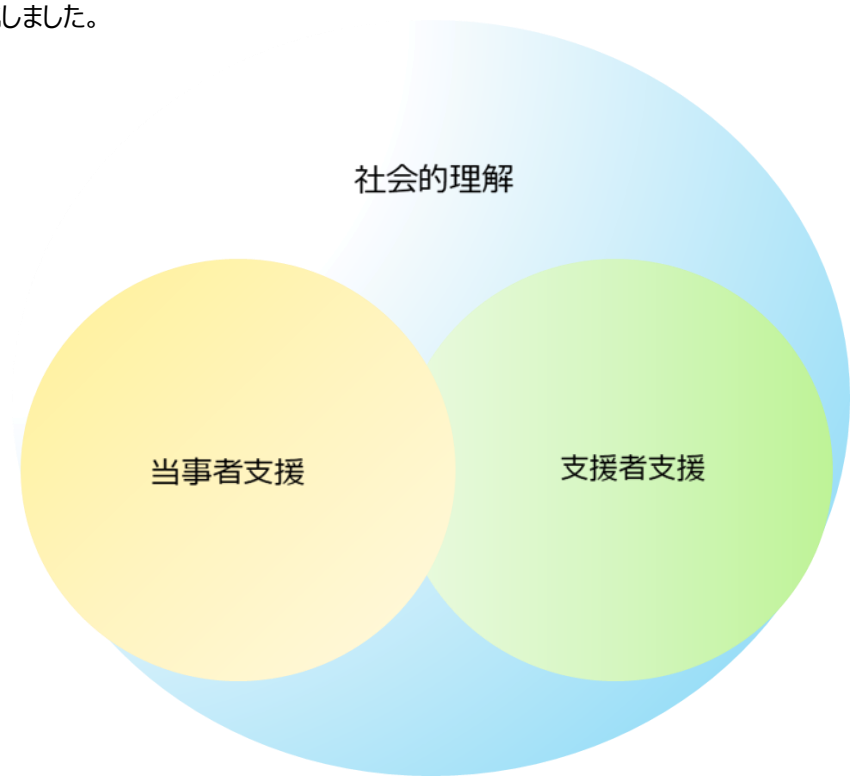
「So」　は　social work（ソーシャルワーク）・sower（種をまく人）

「Labo」　は　Laboratory（研究所）

新法人名称には、食物アレルギー支援の将来へのたくさんの思いや願いが込められています。

「共に」考え・変えていく活動

食物アレルギーの子どもや家族、専門医・エデュケーター等医療関係者、社会福祉士等ソーシャルワークの専門家、子育て支援者など多様なステークホルダーが、地域社会を「共に」考え・変えていく活動を当法人の活動主体であることを中長期計画として明確化しました。



私たちは、活動理念に基づきミッション達成のために、社会的理解・当事者支援・支援者支援の３つの柱で事業・活動を実施しています。それぞれの事業は、個々に実施するのではなく、相互に関わりあいながら進めています。

FaSoLabo 京都　1 年のあゆみ

2021 年 4 月 1 日 ～ 2022 年 3 月 31 日

■ 社会的理解　■ 当事者支援　■ 支援者支援　■ 連携・協働　■ 組織

※主対象はタイトルに、並行した対象はタイトル右の「●」で表示しています

新型コロナウィルス感染拡大による閉所

コロナ禍 2 年目に入り、爆発的な感染拡大による行政からの要請を受け、4/26 から 5/31 まで、8/20 から 9/30 まで、2 度、長期にわたり臨時閉所しました。
閉所期間中は、オンラインによる取り組みや電話による相談を受け付けるなど、利用者が孤立しないよう、交流を続けました。

あおぞらプロジェクト

3 団体と協働し、子ども・子育て支援ソーシャルサポートネットワークの構築のための課題解決を目指して、先進事例の調査とモデル事業実施、府内団体の活動調査等を行いました。

→P18

ばーばのおやつ●

4/23（土）10：30～11：30
参加：２組４名

京田辺市の地域コミュニティ「ばーばの手」の有地淑羽さん・高畑直美さんにアレルギーフリーのおやつ「三色団子」の作り方を教えていただきました。

うぐいすあんのおやつを作ろう●

5/19（水）10：30～11：30
参加：１組１名

八幡市の小さな子どもとママの居場所「ゆるりば」の三好英さんにアレルギーフリーの「うぐいすあん」で作るおはぎを教えていただきました。

ニュースレターNo.151 発行

「こどもがまんなか　みんながみんなの応援団」をキャッチコピーに当事者とサポートデスクの接点として「ひとりじゃないよ」を伝える紙面づくりをしました。年４回発行。

水無月を作ろう●

6/26（土）10：30～11：30
参加：４組９名

料理上手なスタッフに季節の和菓子「水無月」の作り方を教えてもらいました。小学生も楽しんで作れました。

乳幼児のスキンケア講座

7/9（金）10：30～11：30
参加：８組 17 名

小児アレルギーエデュケーターの馬場知美先生に、食物アレルギーの基本知識と乳幼児のスキンケアについて教えていただきました。

子ども会議●

7/24（土）10：00～12：00
参加：7 組 10 名
7/31（土）13：00～15：00
参加：6 組 8 名
8/7（土）10：00～12：00
参加：6 組 10 名

9 月に開催するビッグオープンキャンパスで、子どもたちが主役となる企画・準備・運営をする子どもお店やさんの準備を行いました。

→P12

大学生インターンの受入れ①

NPO 法人ドットジェイピーより、インターン生として 8 月~9 月に５名の学生を受け入れました。

→P13

ビッグオープンキャンパス●

9/5（日）午前の部 10：00～12：00
午後の部 13：00～15：00
参加：12 組 34 名

「こどもがまんなか」をキャッチコピーに当初同志社大学で予定していた「ビッグオープンキャンパス」に替わるお祭りイベントをオンラインで開催しました。

→P13

ティーンミート①

9/18（土）　14：00～15：30
参加：10 名

中学生～20 代の食物アレルギーの子どもたちが集まり、様々な悩みや考えを共有し、話し合いました。

→P9

ニュースレターNo.152 発行

ハロウィンの季節に合わせて、ブルーパンプキンの紹介を掲載しました。

学校生活説明交流会（協力）

10/13（土）10：00～12：30

くみこクリニックが主催する学校生活説明交流会にコーディネーターとして、協力しました。 →P9

お芋ほり＆野草観察会●

10/16（土）10：00～12：30
参加：２組５名

京田辺市のコミュニティ「ばーばの手」主催のおいもほりと野草観察に参加をしました。

食物アレルギー相談援助研究会①●

相談事例検討会
10/17（日）13：30～15：30
参加：12 名 →P10

同心児童館訪問交流

10/18（月）16：30～17：30

同心児童館学童クラブの子ども達を対象に、食物アレルギーのお話しをしました。 →P15

ブルーパンプキンハロウィン

10/21（木）10：30～11：30
参加：5 組 10 名
10/28（木）10：30～11：30
参加：5 組 10 名

同心児童館の協力を得て、乳幼児と保護者対象にハロウィンイベントで寝相アートに合わせ、プルーパンプキンの取り組みを紹介しました。 →P15

H_2O サンタ チャリティーガイドに出展

12 月中通して

一般社団法人 H2O サンタが阪急うめだ本店で、子ども支援に取り組む団体紹介と募金箱を設置した常設コーナーで、活動を月間で紹介していただきました。一般の方に FaSoLabo 京都を知っていただける場となりました。

ニュースレターNo.153 発行

アレルギーっ子の１年間の生活準備カレンダーを提案、経口負荷試験での参考レシピを紹介しました。

助成金授与式●

12/3(金) (公財)小林製薬青い鳥財団

2022 年 8 月実施の「ドリームプランプレゼンテーション」に対して助成をいただきました。 →P11

乳幼児のスキンケア講座●

12/4（土）10：30～11：30
参加：5 組 9 名

小児アレルギーエデュケーターの馬場知美先生に、食物アレルギーの基本と乳幼児のスキンケアについて教えていただきました。

あおぞらプロジェクト

講座「食物アレルギーの基礎知識について」
12/4（土）
講師：青山三智子先生（アレルギー専門医）
主催：NPO 法人おひさまと風の子サロン

講座「乳幼児の食事と食物アレルギーについて」
12/7（火）
講師：伴亜紀先生（食と農のコンシェルジュ Graine）
主催：NPO 法人おひさまと風の子サロン

あおぞらプロジェクト

次世代交流意見交換会
12/9（木）
子育て支援の現場・現状について、協働 4 団体スタッフが ZOOM で意見交流を行いました。

助成金授与式●

12/15(水) ファイザー(株)
「食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究」に対して助成をいただきました。 →P11

ティーンミート②

12/18（土）14：00～15：30
参加：2名 →P9

あおぞらプロジェクト

京都府子育て認証団体活動調査
１２/22（水）
対象：NPO 法人まちづくりサポートクラブ（舞鶴市）
NPO 法人グローアップが、ふるるファーム（舞鶴市）で舞鶴市と NPO 法人まちづくりサポートクラブの協働により実施されている産後ケアの視察を行いました。

食物アレルギー ドリームプランプレゼンテーション説明会●

1/15（土）10：30～11：30
参加：2名
2/20（日）10：30～11：30
参加：2名
3/25（金）20：30～21：30
参加：3名 →P11

H_2O サンタ NPO 交流会

1/17（月）13：00～15：00
一般社団法人 H2O サンタ主催の NPO 交流イベントにオンラインで参加しました。子ども支援活動をしている NPO に FaSoLabo 京都の活動を知っていただく機会になり、活動のヒントを得ることができました。

あおぞらプロジェクト

京都府子育て認証団体活動調査
1/26（月）
対象：NPO 法人こそだてママ net☆

食物アレルギー相談援助研究会②●

相談事例検討会
1/30（日）13：30～15：30
参加：10 名 →P8

大学生インターンの受入れ②

NPO 法人ドットジェイピーより、インターン生として 2 月~3 月に 2 名の学生を受け入れました。 →P13

あおぞらプロジェクト

京都府子育て認証団体活動調査
2/2（水）
対象：NPO 法人まちづくりサポートクラブ（舞鶴市）
NPO 法人グローアップが、まいまいハウス（舞鶴市）で NPO 法人まちづくりサポートクラブにより実施されている産後ケアの視察を行いました。
京都府子育て認証団体活動調査
2/5（土）
対象：NPO 法人京都子育てネットワーク
モデル事業実施のための先進事例調査
2/23（水）
対象：あらかわ子ども応援ネットワーク

ニュースレターNo.154 発行

22 年度の年間イベント計画を掲載しました。

あおぞらプロジェクト

南丹市視察
3/10（木）
NPO 法人おひさまと風の子サロンの子育てコンシェルジュと一緒に NPO 法人グローアップを視察しました。
福知山市視察
3/11（金）
NPO 法人おひさまと風の子サロンの子育てコンシェルジュと一緒に福知山市子育て総合相談窓口を視察しました。

食物アレルギー相談援助研究会③●

相談事例検討会
3/13（日）13：30～15：30
参加：7 名 →p 10

2021 年度の主な事業

はじまりは

「ひとりじゃないよ」を伝えたくて・・・

食物アレルギーサポートデスク

ほっとできる、いつでも集える場所

食物アレルギーの子どもとその保護者の常設の居場所として、食物アレルギーについて相談できる場所、繋がりを感じられ、ほっとできるセーフティネットでありたいと願って運営しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続く中で、対面とオンラインでの取り組みを柔軟に選択し、活動を行いました。

ティーンミート

食物アレルギーの 10～20 代の高校生、大学生、社会人対象

9/18（土）　14 時～15 時 30 分　　参加　10 名
12/18（土）14 時～15 時 30 分　　参加　2 名
ファシリテーター　　細川　真奈さん
　（株式会社イートイズ　代表取締役/アレルギーナビゲーター®）
ゲストスピーカー　　鋤﨑　理子さん　鷲　裕一さん

「毎日同じものを食べるくらいなら治らなくて良い」
「自分が食物アレルギーって、なんでみんなに知ってもらわなあかんの」
「学校休んでまで病院に行きたくない」
子どもたちには、子どもたちなりの思いや願いがあります。
食物アレルギーで嫌だったこと・嬉しかったことを参加者が順番に発表し、現在困っていることがあればその解決方法について話し合いました。参加要件を食物アレルギーの子どもに限定したことで、踏み込んだ内容に関する議論も交わされました。

▼9/18 のオンライン開催

学校生活説明交流会　(協力)

小学校入学前の食物アレルギーの子どもの保護者対象

小学校の入学は、給食・調理実習・校外学習・宿泊学習など、子どもにも保護者にも初めてのことばかりです。初めてでわからないからこそ、不安が大きく膨らんでしまいます。
昨年度実施した「小学校入学準備・学校生活勉強交流会のモデル事業は、心配・不安が安心に変わることを目的に、京都市・京田辺市・長岡京市 2021 年度は、それぞれに地域団体・クリニックが地域に合わせた形で引継がれました。

京都市	京田辺市	長岡京市
くみこクリニック	ばーばの手	食物アレルギー児の暮らしを考える会長岡京

食物アレルギー相談援助研究会

食物アレルギーを生活モデル（福祉視点）で考える場

研究会委員は、医療ソーシャルワーカー・スクールソーシャルワーカー（いずれも社会福祉士）、アレルギー専門医、小児アレルギーエデュケ―ターで構成されています。支援者・当事者の線引きを無くし、みんなで食物アレルギーの子どもの社会生活について検討できる場を作っています。

相談事例検討会

患者会・患者支援団体職員、学校・幼稚園・保育園教員、スクールソーシャルワーカー、学童職員、地域子育て支援拠点職員、保護者など多様な職種・立場の方が参加されました。食物アレルギーの子どもたちの困りごとの実例を取り上げ、生活モデルと医療モデルの両方で捉え、子どもの最大の利益・子どもの権利が擁護されることを大切に、アドバイザーの研究会委員と地域のアレルギー専門医と一緒に対応についての検討を行いました。

10/17（日）13:30~15:30　参加 12 名

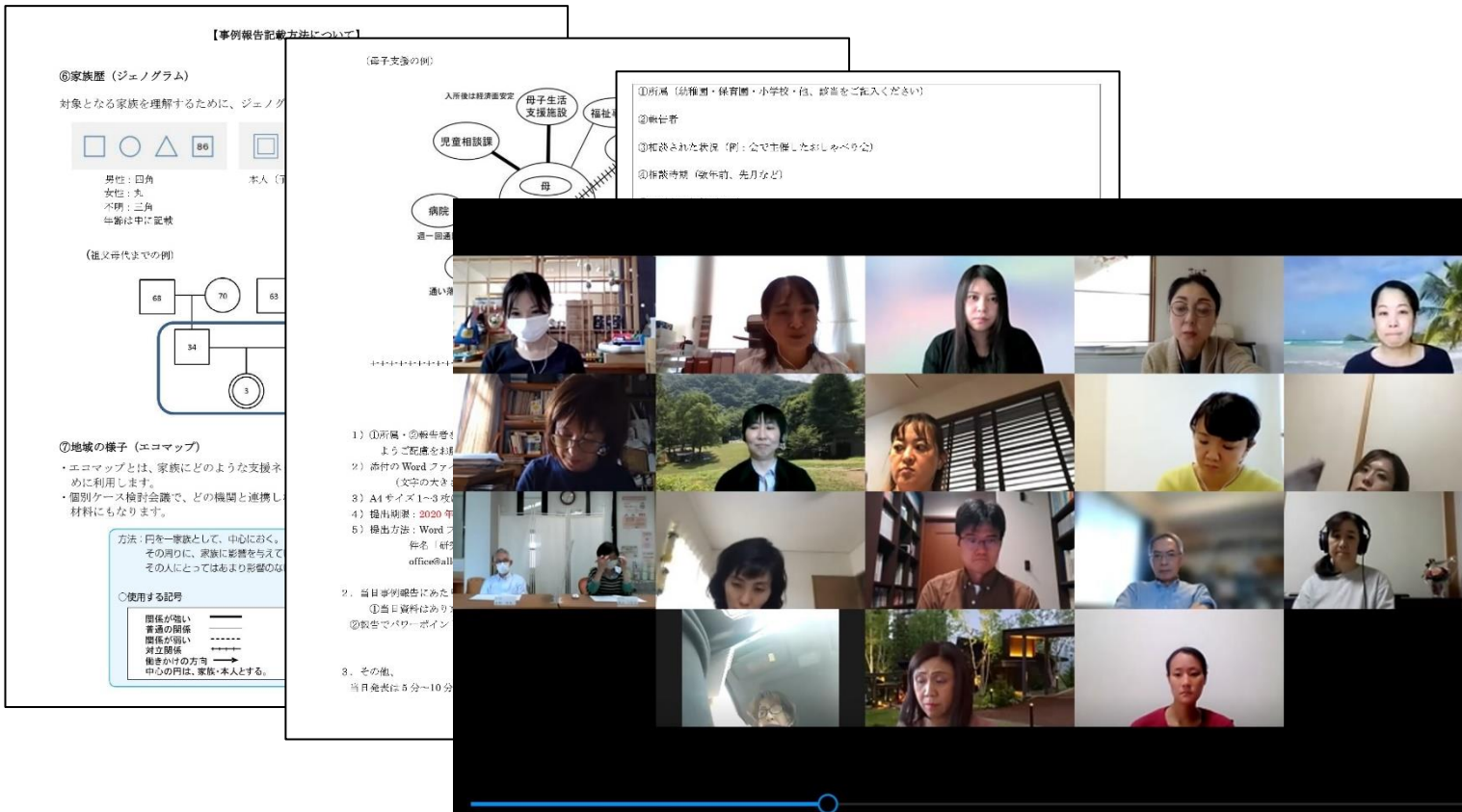
アドバイザー：安野哲也 医師（アレルギー専門医、やすの医院）
青山三智子 医師（アレルギー専門医、京都府立子ども発達支援センター）
上島唯 さん（社会福祉士、医療ソーシャルワーカー）
中村有美 さん（社会福祉士、公認心理士、スクールソーシャルワーカー）

1 /30（日） 13:30~15:30　参加 10 名

アドバイザー：楠隆 医師（アレルギー指導医・専門医、滋賀県立小児保健医療センター）
笹畑美佐子 看護師（小児アレルギーエデュケーター専門医、滋賀県立小児保健医療センター）
上島唯 さん（同上）・ 中村有美 さん（同上）

3/13（日） 13:30~15:30　参加 7 名

アドバイザー：土屋 邦彦 医師（アレルギー専門医、京都府立医科大学附属病院）
上原 久輝 医師（アレルギー専門医、京都田辺中央病院）
上島唯 さん（同上）・ 中村有美 さん（同上）



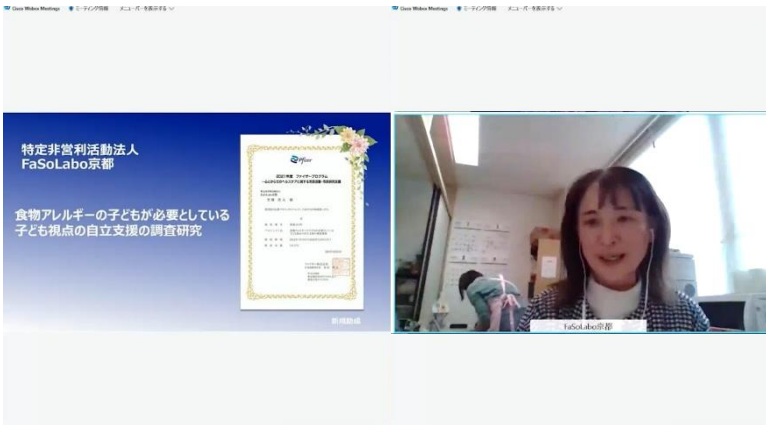
アウトリーチ

こどもの声の調査研究と発信・新たな繋がり作り・活動周知の場

当事者支援と社会的理解は、一対だと考えます。
当事者の姿・声を調査分析し社会に適切に届けること、食物アレルギーの有無に関わらず子どもたち同士が繋がり学び合うことで、食物アレルギーの子どもたちが本当に必要としていることへの理解を広げ深めたいと思っています。

食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究（ファイザー㈱助成事業）

本プロジェクトは、食物アレルギーの子どもが社会に対して描く思いやイメージ、自分自身への思いの実態について、その背景となっているものや影響しているものについて、医療現場、支援団体、食物アレルギーの子どもと保護者、食物アレルギーではない子どもたちを対象に多角的に調査を行い、食物アレルギーの子どもたちの視点をもとに自立支援のパラダイムデザインを描くことを試みます。



Pfizer ファイザー

食物アレルギードリームプランプレゼンテーション（小林製薬青い鳥財団助成事業）

主役は食物アレルギーの子どもたち
　食物アレルギーを通して、社会に伝えたいこと
　食物アレルギーだから、社会にできること
　叶えたいことはなに？　描く夢はなに？
子どもがまんなかとなるように、子ども自身が未来を描けるように。
子どもの発信を聞き、子どもの姿を見て、大人の新たな気付きとなるように。
そんな願いを込めたプロジェクトです。
本番は 2022 年 8 月 6 日（土）にマトイルファクトリーでの開催です。
本年 1 月から 3 月には、説明会を 3 回開催しました。全国から、小学生から大学生の皆さんが、参加されました。
　1/15（土）10:30～11:30　参加 2 名
　2/20（日）10:30～11:30　参加 2 名
　3/25（金）20:30～21:30　参加 3 名

公益財団法人 小林製薬青い鳥財団

社会的理解・当事者支援

子ども会議　(京都生協社会貢献活動助成金事業)
(中京区民まちづくり支援事業補助金事業)
(京都新聞福祉活動支援運営助成金事業)

7/24(土)10 時～12 時、7/31(土)13 時～15 時、8/7(土) 10 時～12 時
参加　延べ 24 名　　ボランティア　延べ 4 名

9 月に開催するビッグオープンキャンパスでは、子どもが主体となって『アレルギー配慮の駄菓子屋さん』と『ゲーム屋さん』コーナーのお店屋さんを行います。オープンキャンパスに向けて、食物アレルギーの有無に関わらず、年長から中学生の子どもが一緒に準備をするのが子ども会議です。子ども会議では、

・地域の子どもたちと食物アレルギー当事者の子どもが共に食物アレルギーについて学ぶ機会
・少しの配慮で、食物アレルギーの有無に関わらず、食を伴った時間を共有できることを学ぶ機会

などを目的に取り組みました。

ビッグオープンキャンパス

（京都生協社会貢献活動助成金事業）

（京都新聞福祉活動支援運営助成金事業）

9/5(日)10 時～12 時　13 時～15 時

参加　延べ 31 名

・社会に広く、食物アレルギーの子どもや保護者の生活について知ってもらうこと

・FaSoLabo 京都の活動について多くの人に関心を持ってもらうこと

を目的に年に 1 回、私たちの活動拠点を開放しています。

（緊急事態宣言期間のためオンライン開催）

★子ども主体で行う「アレルギー配慮の駄菓子屋さん」「ゲーム屋さん」

★同心児童館と共同で「紙食器工作・ブルーパンプキンマスコットづくり」

★子どもにも理解しやすい防災「防災お菓子ポシェットづくり」

★イーデライツさんと大学生のインターンのコラボ「食物アレルギー配慮食品やレシピ紹介」

★食物アレルギー配慮商品に興味を持ってもらう仕掛け「ガチャガチャ」

参加者は各コーナーを回って楽しみながら食物アレルギーや当法人の活動について知る機会となりました。

【協力企業】（順不同　敬称略）

・イーデライツ株式会社　・株式会社禾　・熊本製粉株式会社

大学生インターンの受入れ

今年度は、大学生のインターン受入れを 2 回行いました。

「子どもと食物アレルギー」を社会課題のひとつとして関心を持ち、研修の場に選択した学生たちが、FaSoLabo 京都の業務を経験しました。

中でもオープンキャンパスでは準備段階から当日まで主力スタッフとして力を発揮してくれました。

今後も引き続き大学生のインターン受け入れを行い、社会的理解の促進に向けた活動を続けていきたいと考えています。

つどいの広場

地域との接点

利用者　500 組　延べ 1133 人

子育て相談員が常駐し、食物アレルギーの有無に関わらず安心して利用していただけるように努めています。アレルゲン（アレルギー症状を引き起こす原因となる物質）を持ち込まないための入室時の取り組みや、食物アレルギーへの配慮の手法を紹介した食物アレルギーサポートブックの配布は、食物アレルギーへの理解を促す貴重な機会です。食物アレルギーへの配慮が家庭や地域などの他のコミュニティでも広まれば、食物アレルギーがあっても自分の住む地域で安心して暮らすことができます。

また食物アレルギーへの不安や課題を抱える親子を対象に、毎月一回、社会福祉士による食物アレルギー相談を行い、子育て中の保護者に気軽にお応えする事で、正しい理解や情報共有に繋がっています。

一つ一つの出会いを大切に、来所された親子が安心して過ごせる場所となるよう、また食物アレルギーの社会的理解を広める大切な場所として運営しています。

社会的理解

他団体との連携

2021 年度はより地域に根差した活動、地域の人に当法人の活動と食物アレルギーについて理解してもらうことを目指し、様々な団体と連携して事業を行い、新たなつながり、新たな視点を得ることができました。

同心児童館

地域子育てステーションの基幹ステーションでもある同心児童館とは、昨年度より、イベントで協力いただく他、協力事業の可能性を探り情報交換を重ねてきました。今年度はさらに連携を深め、イベント、情報交換に加え、同心児童館主催研修への参加、当法人からの出張訪問などで、相互交流しました。

★大切な人へのプレゼント　手形足型アート作り

6/14（月）参加　5 組　11 名

★ブルーパンプキンハロウィン　寝相アート

10/21（木）10/28（木）　参加　11 組　22 名

★同心児童館に出張訪問

10/18（月）

同心児童館学童クラブの児童を対象に、食物アレルギーがテーマの絵本の読み聞かせと、サポートブックを使ってアレルギーフリーのおやつやブルーパンプキンプロジェクトについてお話ししました。

▲手形足形アート作り

▼出張訪問でお話し

社会的理解

京パパ堂

7/3、31、10/9、11/13、1/8、2/19、3/19（全て土曜）

参加　延べ 18 組　37 名

講師　鵜川真悟さん（保育士、京パパ堂）

「父親の育児参加を身近に」を目的にパパスクールを実施しました。（12 月からは名称を変更し、パパ DAY として開催）

赤ちゃんとの遊び方を学んだり、子育て交流しました。

パパスクールをきっかけに、つどいの広場ぴいちゃんがパパにとってもママにとっても、お子さんと一緒に利用しやすい場所として定着することを目指しています。

NPO 法人ふれあいほうむ゛どうぞ゛（どうぞのいす）

7/12（月）、11/15（月）、1/17（月）

参加　延べ 17 組 32 名

二条駅周辺の公園や居場所などで絵本やパネルシアターの読み聞かせの活動をしている「どうぞのいす」さんの協力で「絵本のひろば」を 3 回実施しました。

大型絵本や紙芝居、キーボードを使った手遊びなどで、親子が楽しみました。

空風工務店

12/11（土）午前・午後

参加　延べ 11 組 22 名

講師　阿部飛鳥さん

「初めての木工体験」として、サポートデスクの内装などでお世話になっている工務店の協力で、木切れを使ったクリスマスツリーを作りました。

幼児から小学生の子どもが、いろいろな大きさや形の木切れを自由に使い、思い思いのツリーを作りました。大人がイメージするツリーとは違う、個性豊かなツリーが完成し、子どもの想像力の豊かさに改めて驚かされました。

社会的理解

栄養士さんの日

5/17（月）
参加　3組　7名
講師　山岡明日香さん（管理栄養士）

離乳食・幼児食について、日頃から質問や相談が多いことから、初めての取り組みとして、「栄養士さんの日」を設けました。
栄養の専門家が気軽に相談に耳を傾け、子どもの食事で悩む母親と一緒に考え良い方法を考える時間は、同時にスタッフにとっても勉強になりました。地域の中で、活動する栄養士さんと子育て親子の距離を縮め、さらにぴいちゃんへの来所に繋がる機会にできました。

出張つどいの広場

毎月２回　計 17 回（5 月、8～9 月の自粛期間は休止）
参加　58 組　延べ 125 人

中京区社会福祉協議会を会場に、月 2 回出張つどいの広場を開催しています。
広々とした和室で過ごすゆったりとした時間が好評で、保護者の不安や気がかりを拾う場にもなっています。

2 月と 3 月の蔓延防止重点措置の期間は、初の試みとして、京都御苑にて「お出かけつどいの広場@ぴいちゃん」と題し、乳幼児親子が身近な自然を楽しむ場づくりを行いました。（もくじ写真）

子ども・子育て支援のソーシャルサポートネットワークの構築 ～次世代へ渡すバトン～（あおぞらプロジェクト）

（京都府こどもつながり応援隊事業補助金）

2020 年度、1 年目の「子ども・子育て支援団体再資源化プロジェクト（あおぞらプロジェクト）」では、子ども・子育て支援のソーシャルサポートネットワークの構築の提案を行いました。プロジェクト 2 年目となった今回は、ソーシャルサポートネットワーク構築のために、京都府子育て支援認証団体や育て現役世代に改めてニーズ調査を行い、3 地域でモデル事業に取り組みました。

協働団体：NPO 法人おひさまと風の子サロン（福知山市）
NPO 法人グローアップ（南丹市）
NPO 法人子育ては親育て みのりのもり劇場（京都市）

事業内容：

1）モデル事業実施のための調査

・あらかわ子ども応援ネットワーク（東京都荒川区）：社会福祉協議会・行政・他団体との連携
・NPO 法人まちづくりサポートクラブ（舞鶴市）：産後ケア
・NPO 法人京都子育てネットワーク（京都市）：企業との連携・社会福祉協議会との連携
・NPO 法人子育てママ net☆（木津川市）：社会福祉協議会との連携・子育て現役世代のニーズ
・協働団体次世代：子育て現役世代のニーズのニーズ

産前から「甘えて良い」「頼って良い」ことや、「甘えられる」「頼れる」人や場所（地域資源）が、地域にあることを伝えることで、出産・育児への不安への深刻化を未然に防げる可能性が大きいこと、一方で、こういったアウトリーチは、民間だけ、行政だけでは難しく、多様なニーズに応えるために、多様なセクターが相互に連携することが大切であることも明らかとなりました。

２）モデル事業の実施

・NPO 法人グローアップ（南丹市）
・NPO 法人おひさまと風の子サロン（福知山市）
・NPO 法人ＦａＳｏＬａｂｏ京都（京都市中京区）

調査結果等を反映し、それぞれの地域でソーシャルサポートネットワークの構築を目指しました。NPO 法人グローアップ・NPO 法人おひさまと風の子サロンは、行政との連携や役割分担ができていましたが、インフォーマルな連携が不十分なこともあり、各市の社会福祉協議会に連携へのアプローチを行いました。また、当法人は、地域子育て支援拠点でのつながりから、この地域での基幹ステーションである、同心児童館との連携や、中京区地域連携の補助金事業での中京区民や団体との繋がりを積極的に行いました。

プロジェクトを通して、個人・団体・企業・行政の活動（ミクロレベル）は、量は十分でありながら、その資源を活かす仕組み（メゾレベル）が無い事が明らかになりました。そして、この課題については、今回協働・協力いただいた個人・団体・行政の皆さんが、認識されており、その解決のために諦めず継続されている姿がありました。京都の子ども・子育て支援の未来は明るい、そんなことを感じたプロジェクトの 2 年間でした。

今回、最も印象に残った言葉です。
未来を創るのは、私たちなのです。

明るい未来にしたいね♪

京都子育てネットワーク理事長・藤本明美さんの言葉

組織　2021

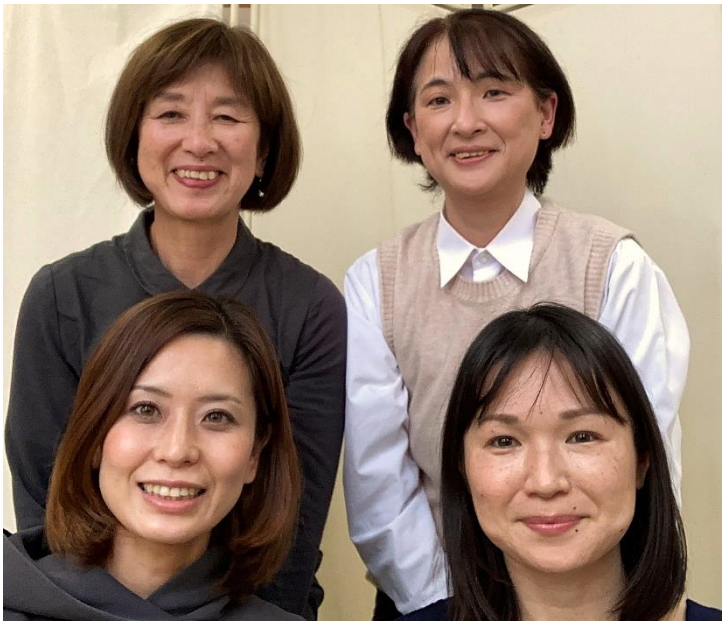
【理事会】2020～2021 年度

理事会は、ソーシャルワークの専門家・アレルギー専門医・保育士・税理士・食物アレルギーの子どもの保護者など多様な分野の者で組織されています。当法人の理念に基づいて、法人の活動計画や事業予算を策定します。
理事は、専門分野に合わせて法人の個々の事業への管理監督の役割も果たし、監事には、活動・運営を精査いただいています。
また 2016 年度からは、認定 NPO 法人となったことから、京都市・京都府の規定により外部監査役に福知山公立大学地域経営学部准教授　杉岡秀紀氏に審査をお願いしています。

理事長	空閑　浩人		
副理事長	青山　三智子	上原　久輝	
理事	鵜川　真悟	小谷　智恵	元木　啓雄
監事	河合　将生		
外部監査	杉岡　秀紀		

【事務局】

子育て中の世代が中心となり、それまで支えてきた旧世代はサポートスタッフとして、新体制で事務局を運営しました。子育て支援の法人だからこそ、スタッフ個人の「子育て」「家族」がベースであることを大切に、それぞれが補完し合えるように努めています。
監事より事業推進のための指導を受けつつ、ありたい姿を目指して、随時、事業運営の振り返りと見直しを行い、業務改善を進めています。



（後列）三好　英　　小谷　智恵
（前列）伊吹　睦子　　粟　絵美

今川　麻紀
(5 月まで)

【学生アルバイト】
金子未穂　藤田基希　（敬称略）
【ボランティア】
大槻真理　小野耕平　出竿乃梨子　松森由樹子　（敬称略）

この他にも年間を通して、多くの皆さまに当法人の事業を支えていただきました。ありがとうございました。

中長期計画

私たちは、常に食物アレルギーの子どもと家族の支援について、子どもが真ん中の視点にたち、支援のありかたを提案（種まき）する専門家でありたいと思っています。

目標：地域社会を共に考え、変えていく行動を行う

方針 子どもが真ん中	事業	結果	目標（数値）
社会的理解	食物アレルギー 相談援助研究会	教える人⇒学ぶ人ではなく“共に学び合う”場所への転換 子育て支援・生活モデルの視点で支援のあり方を社会全体で考える場ができる	安定した研究会の運営のために、会員制の導入にむけた子育て支援者を中心として裾野を広げる。 （公開講座の定期開催　1 回以上／年） 結果を決めず、地域や相手のニーズに寄り添う 自由に研究課題が挙げられる分科会がたくさんできる 困りごと・声が蓄積され、支援ツールができあがる 支援者としてもっと学びたい人への対応 小児臨床アレルギー学会・社会福祉士学会等で 1 回／3 年程度研究発表できる
	調査 政策提言	食物アレルギーの子どもの日常生活について知ってもらう 企業や地域に当事者の声が届く	都道府県アレルギー疾患医療拠点病院・協議会の早期設置について政策提言する（2019 年 8 月実施） ⇒京都府総合計画案（2020 年）の追加案件となる 福祉分野（子育て支援）からのアプローチを行う 京都府の実施する子育て支援員研修で研修が実施される 当事者の声を客観的指標にするための調査を、1 回/年程度実施する 食物アレルギーに関する法律、政策提言の手法の研修を毎月実施する
	講師・講演	生活モデル・子育て支援の視点での学びの場になっている	対象者・課題ごとに対応した講師・講演を 10 回以上／年実施する
	つどいの広場	アレルギーの有無にかかわらず集える場所になっている イベントが、食物アレルギーに配慮された形で実施される 運営する当法人の背景・目的を知ってもらう 研究会事業と連携し、全国のモデル広場となっている	イベントの目的・対象・内容を明確にし、実施する ベビーヨガセラピー　8 回／年　☆ はぐもみ　1 回／年　☆ ☆終了後 20 分程度の交流タイムを設け、食物アレルギーについて知ってもらう場になっている 手袋シアター　1 回／月 手遊び・絵本読み聞かせ　2 回程度／週 ミニアレルギー講座　2 回／年 はじめてセットを初利用者全員に配布する（年間 100 組以上）
	アウトリーチ	法人の事業・活動のアウトリーチの場になっている	オープンキャンパスを年 1 回開催する 企業・団体・個人とつながる 食物アレルギーの子どもの生活を知ってもらえる 異業種との協働事業の実施を年 1 回程度開催する 他分野からの参加者が食物アレルギーを知る機会を創出する
	ファンドレイジング		イエローレシートキャンペーン（AEON）・H2O サンタ（エイチ・ツー・オーリテイリング）の寄付活動に参加する（2 回以上／年） 企業・団体・個人とつながる 食物アレルギーの子どもの生活を知ってもらえる 楽しく寄付との関わりがもてる仕組みを創る
	SNS の発信	不特定多数の人とつながる場になっている	必要な人に必要な形で必要な情報が届く 身近なことでの気付きの機会になる ホームページ 法人概要・財務状況等は、1 回／年更新する 年間活動は、1 回以上／年更新する 月次予定は、1 回／月更新する Facebook 支援者も活動を知ることができるように、1 回以上／週、イベント告知・報告などを行う LINE 月次予定は、毎月前月中旬までに発信する 会員・一般 LINE の管理を行う 【会員】 フレンズ会員全員の登録を目指す・先行告知を行う 【一般】 会員以外の登録者を増やす（１００名以上） Instagram・Twitter 匿名性の高い SNS は活用しない。顔の見える支援を行う

<table>
<tr><th>成果</th><th>影響</th></tr>
<tr><td>生活面・精神面を支援できる人材の学びの仕組みができる
調査・研究した事象を政策提言へと発展させられる

相談事例集を発行する

京都社会福祉士会と連携し、子どもの取り組み案件の１つになる
学生や福祉関係者を巻き込む

子育て支援者への垣根を下げる
子ども包括支援センターのような場所が地域社会にできる

食物アレルギーの相談援助ができる人材育成の仕組みができる</td><td rowspan="2">食物アレルギーソーシャルワークの仕組みができる
食物アレルギーソーシャルワーカーが増える
（例）医療ソーシャルワーカーがサポートする疾病の１つとなっている

食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で考えられる

教育・社会生活の場でのノーマライゼーションが実現される

医療・福祉・教育・防災が連携できている

一地域での取り組みが、広域から全国へ広がる</td></tr>
<tr><td>保護者・子ども本人、医療、福祉、教育等、それぞれの場の食物アレルギー支援の過不足を客観的に評価し見える化する
当事者）自分たちの声が届いた実感を持ってもらえる
支援者）自分たちができること、するべきこと、しないといけないことに気付いてもらえる

食物アレルギーの相談支援事業を行政（協議会）が行っている
幼・保・学校、公・私に関わらず、子どもの安全を担保できる受け入れ側の研修をする仕組みができる
保護者一人ひとりが個別に交渉するのではなく、相互に分かりやすいシンプルな仕組みができる

職員全員が調査・政策提言・食物アレルギーを取り巻く環境の周知ができるようになっている</td></tr>
<tr><td rowspan="3">食物アレルギーを身近に感じる

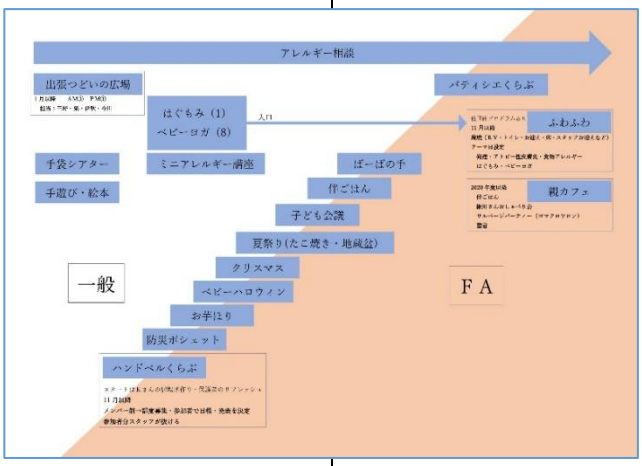
社会的接点

理解者・応援者が増え、第三者が広く食物アレルギーを伝える役割を担う

食物アレルギーを自分事として捉えてくれる</td><td>つどいの広場全国協議会において支援者研修が実施される
地域の差がなくなるための、全国で統一のガイドラインができる
全国のつどいの広場がアレルギーに配慮された運営となる

利用者支援事業（地域子育て支援拠点事業）の対応が食物アレルギーについても実施される</td></tr>
<tr><td>当事者の主体的活動の場となる

食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で共に考えられる社会的寛容が進む</td></tr>
<tr><td>食物アレルギーへの関心を示す人が増える</td></tr>
</table>

方針 子どもが真ん中	事業	結果	目標（数値）
社会的理解 ・ 当事者支援	ニュースレター	子育て支援の場にニュースレターが置かれている FaSoLabo 京都との保護者の接点（入口のツール）になっている	４回／年発行する 2020 年度（移行期） ４～6 月号、７～9 月号、10～12 月号、1～3 月号 2021 年度以降は季刊発行 5～7 月号、8～10 月号、11～1 月号、2～4 月号
	サポートデスク (居場所作り)	食物アレルギーの生活面・精神面の相談ができる場所が提供できる 食物アレルギーの子ども同士・保護者同士がつながれる場所になっている アレルギーフリーの地域行事・社会体験などに参加できる場所である つどいの広場の人もサポートデスクのイベントに参加している（地域の人への垣根を低くする）  	イベントの目的・対象・内容を明確にし実施する キッズチャレンジ パティシエくらぶ　１回／年　☆ 防災ポシェット　１回／年 夏祭り（たこ焼き屋さん）　１回／年 子ども会議　３回／年 オープンキャンパスお店屋さん　１回／年 ばーばのおやつ　１回／年 お芋ほり　１回／年 クリスマス会　１回／年 BAN　ばん　バーンと伴ごはん　３回／年 親カフェ　６回以上／年　♡ ふわふわ（貸し切りの日）　１回／年　◎ ☆当事者優先 ♡当事者対象。伴ごはん、細川さんおしゃべり会、サルベージパーティ、ティーンズミーティング等と組み合わせる ◎テーマ（発達・アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・はぐもみ・ベビーヨガセラピー）を決めて実施
	災害支援	フレンズ会員に緊急時安否確認システムに登録してもらう 自助の大切さを伝える講座を開催できる 関連する会議に参加している	会員更新時に、防災グッズ等を渡す　１回／年 サポートデスク事業（キッズチャレンジ）で地域住民（子ども）と共に防災ポシェットを作る　１回／年 京都 DWAT の研修・訓練に参加する（社会福祉士有資格者） ２回以上／年
社会的理解 ・ 支援者支援	出張アレルギーの学び舎	子どもに関わる人に講座の提供ができる 当事者と支援者が相互の立場や思いを知り合える場所の提供ができる	支援拠点の多様なニーズに応える講師を確保できている 日本アレルギー学会専門医　１０名以上 小児アレルギーエデュケーター　２名 栄養士・管理栄養士　２名以上 社会福祉士　５名以上
	アレルギー大学	2019 年度で終了 研究会事業でのソーシャルワーカーの育成に方針変更	――――――――――――――――
組織運営	組織基盤強化	運営に関するスキルを獲得する NPO 法人について知る ありたい姿、目指す姿、私にとってのFaSoLabo京都を考える 食物アレルギーについての知識・理解を学ぶ場がある ソーシャルワークスキルを学ぶ場がある 社会のしくみ（自治体等の公的制度など）を知る	定例ミーティングで困り事・課題が検討できる　１回以上／月 全員が事業全体を見渡せ、業務の相互補完ができている　残業０

成果	影響
“独りじゃない”ことが、当事者に伝わる ⇒ イベント等への参加の機会につながる 食物アレルギーのピアサポートの入口として問い合わせがくる 当事者が知りたい身近なことを知ることができる	当事者―社会 双方向の流れができる 当事者への共感が伝わる
親支援・子ども支援としてセーフティーネットの役割が果たせる 保護者にとって息抜きできる居場所になっている 子どもにとって夢や希望が描ける場所になっている 親子にとって安心・安全に過ごせる場所になっている	地域社会で、食物アレルギーに配慮された場所作りやイベント運営がされている フレンズ会員がサポーター会員となり次世代を支えている 地域のサポーター会員が増え、支える寄付が集まる
各家庭で、被災時の準備（自助）ができている 地域資源（講座主催団体・参加個人）の再資源化や、自分たちが居住する地域の防災対策を知り、被災時に備えられる（互助・共助） 京都 DWAT の対象案件に食物アレルギーが組み込まれ、対応ができている（公助）	地域防災対策への波及効果 京都府域の他団体（福祉関係）とのネットワーク構築 京都府との連携構築
京都府内各所に支援拠点（団体）ができている 10 箇所以上 支援拠点（団体）同士のネットワークが構築でき、相互に助け合うことができる 支援拠点（団体）の相談事例、困りごとを研究会事業で検討ができている 支援拠点（団体）の要望に沿った中間支援ができている	FaSoLabo 京都が特別な場所でなく、あちらこちらに居場所ができる
――――――――――――――――	――――――――――――――――
事業運営のための課題・目標を共有するための研修が行える 職員が理事会に出席し、運営について学ぶ機会にする 出張アレルギーの学び舎等に職員が参加し、食物アレルギーの知識を学ぶ 相談援助研究会に職員が参加し、ソーシャルワークスキルを学ぶ 外部研修へ参加できる体制ができる	皆が柱の組織 ONE TEAM

受賞歴

2015 年 2 月　「京都はぐくみ憲章～子どもを共に育む市民憲章～」実践推進者表彰
2016 年 3 月　内閣府平成 27 年度「子供と家族・若者応援団表彰」内閣府特命担当大臣表彰　受賞
2016 年 11 月　公益財団法人　社会貢献支援財団　第４７回社会貢献者表彰　受賞
2017 年 1 月　パナソニック NPO サポートファンド贈呈
2017 年 1 月　京都府子育て支援団体認証
2017 年 11 月　第 11 回京都府子育て支援表彰 「地域貢献部門」 受賞
2019 年 1 月　京都市社会福祉協議会　会長表彰　社会福祉事業奉仕活動表彰　受賞
2020 年 1 月　独立行政法人福祉医療機構　平成 30 年度 WAM 助成事業が特に優れた事例として事業評価報告書にて評価される

助成金・補助金実績 2021

・京都新聞社会福祉事業団　福祉活動支援　運営（年間運営）
・京都市中京区まちづくり支援事業（子ども会議・ティーンミート）
・京都府こどもつながり応援隊事業補助金「あおぞらプロジェクト」
・ファイザー心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援（１～１２月）
「食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究」
・小林製薬青い鳥財団「食物アレルギードリームプランプレゼンテーション」(１-１２月)
（・京都生協２０２０年度助成金の保留金オープンキャンパス費用として充当）

新聞掲載 2021

・2021 年 11 月 19 日(金)　毎日新聞　地域から　特集記事「アレルギーっ子」の生活向上を（取材）
・2022 年 3 月 7 日(月)　京都新聞　福祉のページ　ふくしナウ（寄稿）

財務諸表

活動計算書

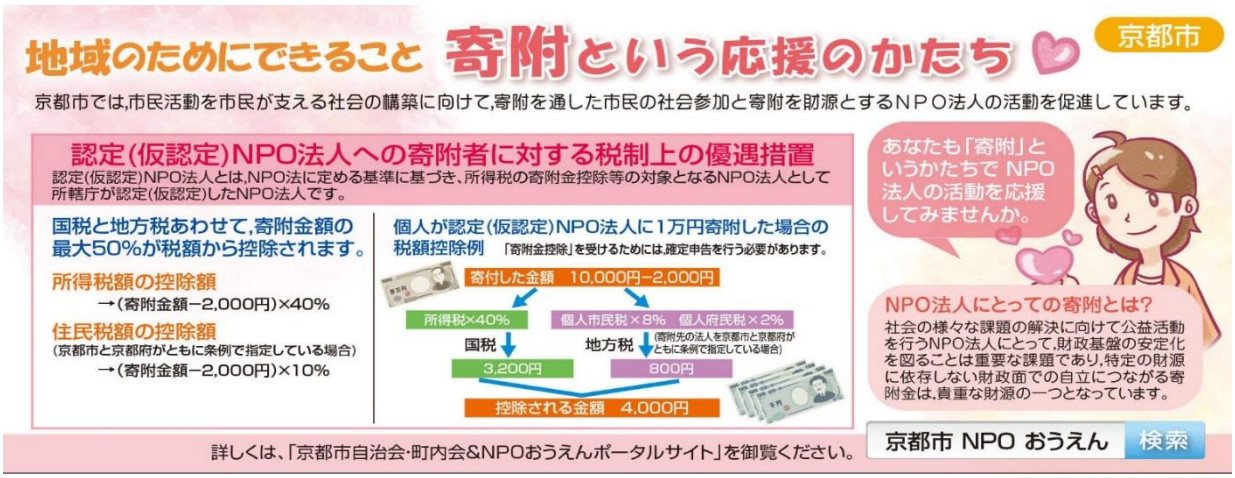
【経常収益】		
受取会費		502,346
受取寄付金	受取寄付金	650,171
	ボランティア受入評価益	474,802
	商品等受入評価益	167,082
受取補助金等	受取補助金	941,000
	受取助成金	677,400
事業収益	業務委託料	6,988,500
	利用者負担金	15,500
その他収益	雑収益	7,000
	受取利息	14
経常収益計		10,423,815
【経営費用】		
事業費	人件費	4,099,966
	ボランティア評価費用	474,802
	商品等評価費用	167,082
	その他経費	3,824,509
管理費	人件費	1,566,541
	その他経費	267,512
経常費用計		10,390,412
当期経常増減額		33,403
経常外費用		549,978
当期正味財産増減額		△516,575
前期繰越正味財産額		△957,997
次期繰越正味財産額		△1,474,572

貸借対照表

【資産の部】			**【負債の部】**	
流動資産	未収金	1,072,500	未払金	851,124
	現金・預金	683,430	前受金	2,927,600
	前払費用	175,000	預り金	17,152
	棚卸資産	56,900		
	他店商品券	10,000		
	貯蔵品	11,174		
	仮払金	12,300		
	流動資産合計	2,021,304		
固定資産	差入補償金	300,000		
		300,000		
資産合計		2,321,304	**負債合計**	3,795,876
【正味財産】				△1,474,572

FaSoLabo 京都の事業・活動は、「食物アレルギーの子どもと保護者の QOL（生活の質）の向上」を目的に行っています。これには「当事者支援」と「支援者支援」「社会的理解」３つの支援が大切だと考えています。安心して、継続した支援を行うには、皆様からの資金面でのサポートが大きな力となります。

「フレンズ」は、
「利用者」と運営する「スタッフ」という一方的な関係ではなく、「一緒に活動していく仲間でありたい」という思いを込めて命名しました。実は、他にも「ファミリー」などの名称案も出ましたが、内輪で閉じこもることなく、アレルギーの有無に関係なく仲間の輪を広げていけるようにという思いも込められています。

種別	名称	会費	特徴
正会員		１０，０００円	●ニュースレターが年３回郵送されます。 ●会員・フレンズ限定ＬＩＮＥに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●イベントや講座に無料または割引料金で参加できます。 ●当法人の総会での発言権・議決権を有し、当法人の事業・活動を実施・運営することができます。
フレンズ	個人フレンズ	３，０００円	●ニュースレターが年３回郵送されます。 ●会員・フレンズ限定ＬＩＮＥに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●イベントや講座に、無料または割引料金で参加できます。
	団体フレンズ	５，０００円 ※イベント参加は１回につき２名まで。	
サポーター	個人サポーター	個人：３，０００円～ （以降１，０００円単位で任意）	●ニュースレターが年３回郵送されます。 ●寄付金として税制優遇（※）を受けられます。 ○イベントや講座の参加に対しての割引はありません。 <u>食物アレルギーの子どもと保護者を支援したい！という方向け</u>。
		団体：５，０００円～ （以降１，０００円単位で任意）	
	企業サポーター	企業：３０，０００円～ （以降１，０００円単位で任意）	●ニュースレターが年３回郵送されます。 ●サポートデスクを商品のモニタリングや広報などに利用できます。 ●ニュースレターへ無料で広告を掲載できます。 ●FaSoLabo 京都のホームページにバナーやリンクを掲載できます。 ●寄付金として税制優遇（※）を受けられます。
		個人事業主：１０，０００円～ （以降１，０００円単位で任意）	

※FaSoLabo 京都は 2017 年１月より認定 NPO 法人となりました。認定ＮＰＯ法人制度は、ＮＰＯ法人への寄附を促すことによりＮＰＯ法人の活動を支援することを目的としており、下のような税制上の優遇措置を受けることができます。